

解剖学演習

[演習] 第1・2学年 前期 選択 2単位

《担当者名》 下村敦司 shimo@hoku-iryo-u.ac.jp 入江一元

【概要】

解剖学特論で学んだ、臨床症状とその要因について三次元的に考察し、その臨床症状の予防方法や治療方法の検討などを具体的に学ぶ。また、各自が持つ臨床における疑問点について、解剖学的構造や機能解剖の視点を基に考察し、解決させる。

【学修目標】

リハビリテーション科学研究を実施するために、身体の構造と機能を実習を通じて理解する。

1. 調査および考察を行う部位を、適切に剖出することができる。
2. 剖出した部位を基に、臨床症状の予防方法や治療方法を考察することができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1) 12	肉眼解剖学	四肢、体幹、頭頸部の構造と機能との関連性について熟考させ、深化させる。	下村敦司 入江一元
13) 15	微細解剖学	細胞や組織レベルの微細な構造と機能の関連性について熟考させ、深化させる。	下村敦司

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

実習への参加状況、実習後に課すレポートによって評価する。（レポート100%）

【教科書】

特に指定せず、授業内容や課題内容に応じて必要な資料を推薦または指定する。

【参考書】

坂井建雄 著 「解剖実習カラーテキスト」 医学書院 2013年
寺田春水 他 著 「解剖実習のてびき」 南山堂 2004年

【学修の準備】

授業内容について、事前に紹介する書籍や文献等を活用して予習を行うことまた、紹介する文献以外にも関連分野の文献等を各自調査し予習を行うこと（約120分）。

授業後は、授業資料や授業時に紹介した書籍や文献等を基に学習を深めること（80分）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

リハビリテーション領域における高度な知識および技術を修得し、対象者が抱える諸問題に対して、科学的根拠に基づいた質の高い臨床実践を展開できる問題解決能力を身につけているというリハビリテーション科学専攻博士前期（修士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。